

銀漢亭日録



伊藤伊那男

3月14日(木)

▼蔵さん、宗一郎さん。麦さん、羽衣衣さん。洋酔さんホワイテデー用チョコレートを大量に持って現れる。洋酔塾百回記念号「酔歩」も。一句求められ、〈百段のあとと百段遍路道〉清人、一平さん気仙沼の仲間と。

15日(金)

▼中根さん掃除。作句。発行所「野村句会」あと店へ五人。そのあと閑散。水内慶太、水香、一平、うさぎ、清人、昌也、初子さんなど。

16日(土)

▼マッサージ機でうたた寝。午後「纏句会」。私の都合で一週間ずらしたせいもあり九人と少ない。その分、選評ゆっくり。若筍と若布、焼蛤、題の鱈の若狭焼。あと握り。酒は「東光」。渋谷で買物。「福ちゃん」に寄り、鰯、魴の刺身でビールと酒。

17日(日)

▼中島凌雲君の茶事に招かれる。武蔵野市関前の「二枝窓」。客は禪次、花果、美佐、直之の面々。炭手前、懷石、千鳥の盆、濃茶、薄茶とこまやかなもてなし。料理もすべて凌雲君の作った逸品。心の籠った感動の茶会。金森宗和流。昼の酒に帰宅してぼんやり。

18日(月)

▼選句、エッセイ二本。店、暴風雨の予想もあつてかひどく不入り。坪井さんとゆっくり話。二十二時半、閉める。家近くの居酒屋で作句。

19日(火)

▼選句追込み。発行所「はてな句会」。終って五人店。洋酔さんの親戚の新潟「千代の光」を取寄せたので連絡すると早速来店。二本空く。「天為」発行所の面々。

20日(水)

久々、対馬さん。この度、編集長を退き、小石さんが編集長と。まずまずの入り。京都の川村悦子(亡妻の従姉妹・画家)東京国際フォーラムでの個展で上京。

21日(木)

▼九時、全体。散髪。十五時、武蔵小山の杏の家。家の相談を受ける。豆乳鍋。

22日(金)

▼発行所四月号発送。五月号選句稿渡す。六月号選句稿受ける。「金星句会」あと中島凌雲君大阪転勤の送別句会。四十五人集まる。事前三句出し。題は「中」「島」「雲」。(雲掴むやうな話も春愉し)。幹事、堀切君の段取り見事！

23日(土)

▼萩原一夫君から、貨客船・浅間丸の資料届く。色の浜の「ますほの小貝」も。正午より「りいの」主宰檜山哲彦さんの第二句集『天響』出版記念会。アルカディア市ヶ谷。入場する前に市ヶ谷の土手を歩く。満開の桜。会では、祝辞トップの指名で慌てる。東京芸大の教授だけに客席から立ち上がった歌手三人の乾杯の歌で祝杯など音楽の趣向がふんだん。(花の昼天に響ける歌あまた)終って井上弘美、谷口摩耶、井越芳子、吉田章子(角川)さんと「オホーツク」という酒場。帰路、家近くのワインバー。酒が入るともう仕事にならないので飲む。あつ、その前に明大前の居酒屋にも寄っていた。伊勢神宮機関誌「瑞垣」春季号の校正稿届く。

24日(日)

▼早朝からずっと五月号の原稿書く。十七時、京王堀之

4月1日(月)

す鼻の下)NSビルにて二次会。
▼「某るバカの会」と称する集い(阪西敦子幹事)二十人。発行所「かさ、ぎ」勉強会(今日は石川桂郎と)、終って九人店。五月号の校正原稿受ける。

3日(水)

▼風雨強し。寒い。店「読む会」攝津幸彦についてとていつものメンバーに加えて筑紫磐井、阪西敦子さん計六人。発行所「ささらぎ句会」終って店へ五人。志峯さん久々。「宙句会」終って五人。麒麟さんから広島島の酒二本、お礼にと。

4日(木)

▼「天為」の青柳フェイさん米国から。発行所、環順子さんの句会、終って五人店。夜、「十六夜句会」あと八名。

5日(金)

▼発行所「大倉句会」あと十四人店。愛媛に居を移した片山一行さんが上京で参加。甥の俊輔ふらりと。

6日(土)

▼店、十三時半、「Oh! 花見句会」台風並高気圧接近とて欠席者出たが矢でも鉄砲でも降ってこい！が二十一人集合。持ち寄り五句でスタートし、三句、二句と四回計十三句の句会。始めから飲み食べ、十九時半まで。

9日(火)

▼十三時店。「俳句四季」六月号「今月の華」コーナーの写真撮影に記者の西井洋子さんを店で待つ。結局、神保町の町中より店の中で撮ることとなる。超結社「火の会」十二人。

10日(水)

▼発行所「梶の葉句会」の選句。そのあと編集部は五月号校正。店閑散。萩原空木さんより浅間丸についての『狂気的大海』(内藤初穂)の最終章のコピー届く。禪次さんから出雲君のための古事記の資料など戴く。

内駅、宮澤と待合せ。兄の家。カラスミと酒持参。兄の家の山椒の芽、あしたば、柚などを使った料理で酒盛り。二十二時辞去。

25日(月)

26日(火)

▼「湯島句会」出句百二人。出席三十人。
▼五月号の原稿全部、武田編集長に渡す。「萩句会」選句に。店超閑散。

27日(水)

▼福永、洋征さん、大学同期の渡辺勲さんを紹介がてら。大野田君加わる。麒麟、厚子夫妻、大西君と結婚祝賀会打合せ。あと大西君と余興の打合せ。「月の匣」水内慶太さん一派。二十二時半、閉めて、いづみ、展枝、大野田、大西さんと「大金星」へ。馬鹿話。

28日(木)

▼「雲の峰」用エッセイ「そして京都」の原稿少し書き溜める。うらかな花日和。清人さんの「鮪の会」、出版関係者二十一人。「雛句会」十人など。池田のりをさん。小島正さん。

30日(土)

▼十時、金沢文庫駅集合。四十三人。「銀漢」春の本部吟行会「金沢文庫から八景へ」。称名寺は花吹雪の中。ボランティアの説明受ける。文庫も見学。参道の茶店にておでんと蕎麦、酒も少々。八景まで歩く。少々時間あったので坪井さんとワントン、餃子で酒。瀬戸町内会集会所にて四句出し句会。「おぼろ」にて懇親会。そこへ山田真砂年さんが飛入り参加してくれる。一旦終ってから同店で仕切直しの二次会。べろべろ。倒れんばかりの状態で帰宅。

31日(日)

▼十六時、新宿住友三角ビル五十階。西村麒麟、厚子さんの結婚を祝う会。乾杯の発声役。(春愉し麒麟の伸ば